

# 環境再生緑化システム



Refugia  
レフュジア



関連イベントの開催



自生地での種子採取



生産圃場



保有種子（生物多様性補選のための国土区分思案区域6: 本州中部太平洋側区域）

Refugia（レフュジア）：氷河期など、広範囲にわたって生物種が絶滅する環境下で局所的に種が生き残った場所。待避地。提供元：「デジタル大辞泉」





## ■製品概要

地域在来種は何万年もの間、試行錯誤を繰り返して地域に最適化された完成品であり、その組み合わせについても同様です。環境再生緑化システムRefugiaは自然の仕組みに習うことで、原風景や環境の再生、生物多様性保全に対して質の高い緑化を提供します。計画地の潜在自然植生、原植生や周辺地域の植生をモデルに木本から草本植物までを植生ユニット化。計画地と面積を指定することで自然の再生が可能です。

## ■生産フロー

1. ユニット設計  
計画地の地域性と環境条件によりユニットの植生タイプを選定
2. 調達  
計画地周辺<sup>※1</sup>での種子採取、挿し木等により材料を調達<sup>※2</sup>
3. 育成・納品  
生育期（4～10月）を含む1シーズンの育成後に納品

### ※受注生産品

納品までに調達で1年、育成で1年の合計2年間必要となります  
関東平野部については種子を保有しているため1シーズンでの納入が可能です

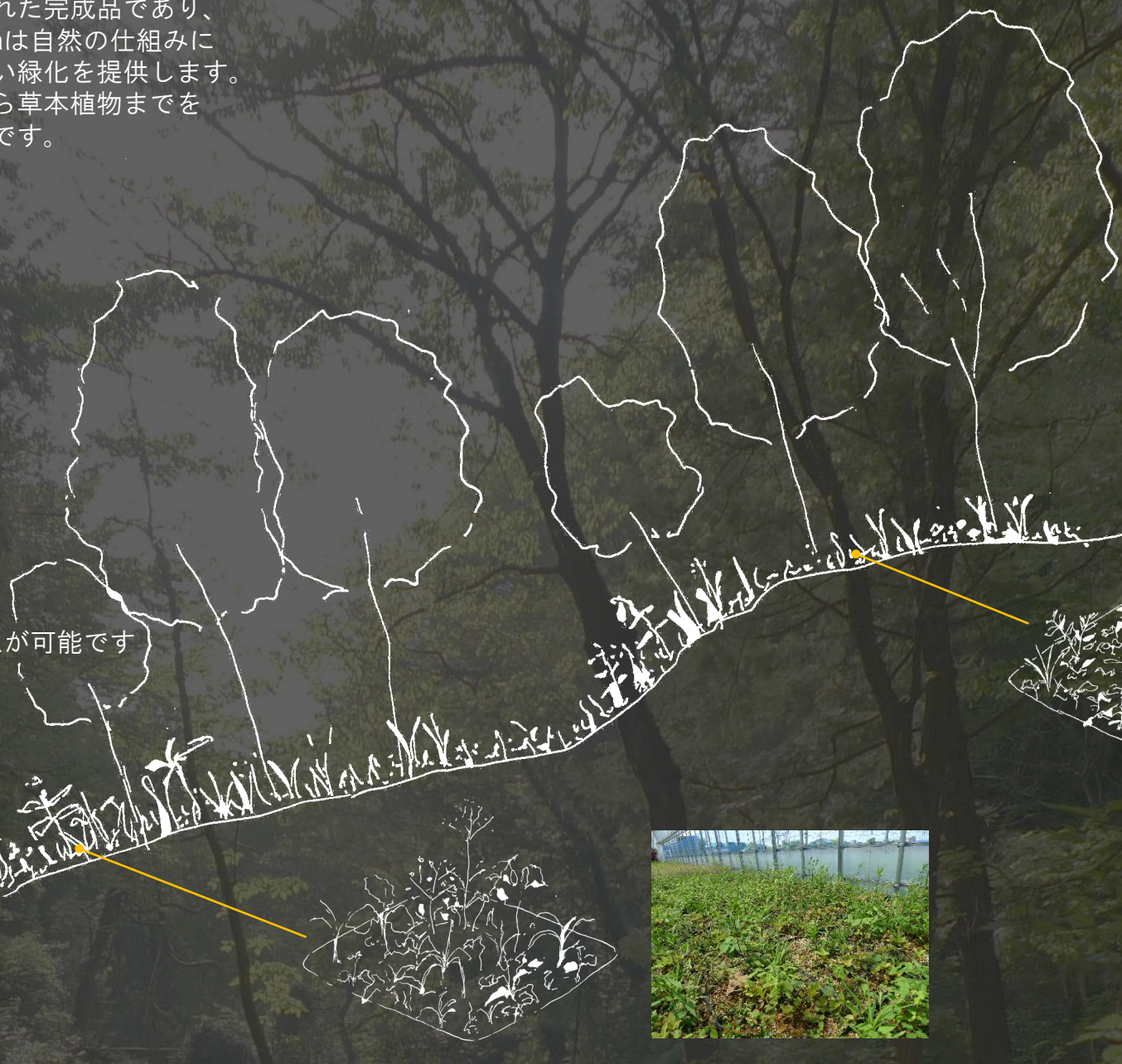
ユニット設計例  
対象地：関東



オギ群集タイプ



- ※1植物の地域性の定義については「生物多様性保全のための国土区分試案」を必要条件とし、その都度個別に定義するものとします  
※2採集地での次世代への影響に配慮して採取量は利用可能な種子の20%以下とします  
※3地域植生ユニットに混植する植物は植生タイプにより異なります



シラカシ群集タイプ



クヌギ-コナラ群集タイプ



## ■製品内容



1. 地域性種苗  
トレーサビリティを確保した地域固有の植栽材料  
ポットには埋土種子を混合



地域性種苗5～15種  
40pot/m<sup>2</sup>

種子混合（埋土種子）

2. 地域植生ユニット  
地域性種苗5～15種（40pot/m<sup>2</sup>）を混植した植生ユニット<sup>※3</sup>  
ユニットには埋土種子を混合